

2025年7月期第3四半期

決算説明会質疑応答要旨



プレミアアンチエイジング株式会社

2025年6月17日

2025年7月期第3四半期 決算説明会質疑応答要旨
(2025年6月12日開催)

【ご留意事項】

「決算説明会質疑応答要旨」は、説明会での質疑をそのまま書き起こしたのではなく、ご参加いただけなかった方向けに、当社の判断で簡潔にまとめたものです。

1. 2025年7月期の通期売上予想を160億円に修正したがその要因は？

2025年7月期の通期売上予想を当初計画の175億円から160億円に15億円下方修正したが、その主な要因は①アンチエイジング事業を取り巻く事業環境が引き続き厳しく、アンチエイジング事業の売上が計画比減少、②景気の悪化等による中国市場における売上の減少、③リニューアルに伴う返品影響の3つと考えており、正確に等分ではないが、それぞれ相応の影響を見込んでいる。

2. 2025年7月期の通期営業利益予想を3億円に上方修正したが、第3四半期の営業利益は12.6億円なので第4四半期の営業利益予想は9.6億円の赤字となる見通しだが、その要因を説明して欲しい。

第4四半期には、リニューアルしたデュオやLalaskin（ララスキン）の全国発売等に向けた広告・販促投資を積極的に展開するほか、ベネクスの認知を高め、更なる売上成長を促すための追加のマーケティング投資を継続する。加えて、デュオのリニューアルに伴う旧品の返品の影響等を見込んでいるため、第4四半期単独では営業損失を計上する見通しである。

3. デュオのリニューアルは成功したのか？来期のデュオをどのように見ているか？

デュオは、「ザ クレンジングバーム」シリーズ5種のリニューアル新発売が4月までに完了し、新たに店舗限定で投入した66gサイズや18gミニサイズの販売が好調に推移しており、リニューアルは順調。ただし、第3四半期の販売にはリテールにおける初期出荷が含まれており、第4四半期には返品の影響等もあるので、もう少し慎重に見極める必要がある。デュオは@cosme ベストコスメアワード2025 上半期新作ベストコスメで、ベストクレンジング第1位、価格別賞ミドルプライス部門クレンジング第1位の2冠を受賞し、この受賞と連動したマーケティング施策を昨日スタートさせた。新商品の企画も複数検討しており、来期以降の反転に向け頑張っていきたい。

4. オールインワン市場は足許で縮小傾向にあるようだが、カナデルの売上にどう影響すると見ているか？

決算説明資料の参考資料 P. 36 に富士経済出典のオールインワン市場規模の推移を載せているが、オールインワン市場は時短ニーズやコロナ禍の影響もあり 2022 年まで右肩上がり成長してきたが、足許では若干減少傾向にある。当社は、比較的若い新しい世代の時短ニーズを捉えカナデルをローンチし売上を伸ばしてきたが、オールインワン市場は、もともと比較的高齢の顧客層を対象にオフライン広告で顧客基盤を築いてきた競合が強力な地位を誇っている。当社も 4 月にカナデルのオールインワンジェルとの併用を促すチューニング・ローションを投入、暑い時期の限定商品として清涼感溢れるプレミアムモイストクールを投入するなど巻き返しを図っている。

5. クレンジング市場は、バーム剤型を除くと市場が拡大する見通しだが、今後デュオをどうするのか？

クレンジング市場は 2020 年から 2024 年にかけて 10%で成長しており、今後も成長が見込まれる。一方バーム剤型のシェアは 2022 年の 21.2%から 2024 年には 15.9%まで減少しており、価格が安くメイク落ちが良いオイル剤型が伸長している（出典：富士経済「化粧品マーケティング要覧 2025No.2」）。当社としては、落とすだけでなく潤うというバーム剤型の魅力をしっかり訴求し、クレンジングバームのシェアの底打ち、反転を目指していく。

6. 参入企業が増加しており市場も拡大している洗顔市場への参入を検討しないのか？

クレンジング市場は 2023 年から 2024 年にかけて 2.5%成長したが、クレンジングを含むスキンケア市場は 4.5%の高い伸びとなっている。市場規模もクレンジング市場の 1,400 億円超に対してスキンケア市場は 1 兆 4,000 億円を超えており大きなポテンシャルがある（出典：富士経済「化粧品マーケティング要覧 2025No.2」）。当社はスキンケアの入り口となる洗顔・クレンジングのカテゴリーでデュオによって確固たる地位を築いており、洗顔や化粧水、美容液の分野でも製品を販売しているが、更なる成長を実現するためスキンケア市場における事業展開について真剣に議論を重ねていきたい。

7. ブランドを跨いだクロスセルはどのくらいあるか？

ブランドを跨いだクロスセル率は公表していないが、全体では 12%となっておりまだ十分とは言えない。競合の中にはもっと高い数字を開示している会社もあることは承知している。クレンジングのデュオと相性の良い商品を投入するなどして、引き続きクロスセル率の向上を目指していく。

以上

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

- ✓ 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ✓ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- ✓ 成長の実現や事業計画の遂行に重要な影響を与える可能性があるとして認識する主要なリスクとして、通販化粧品市場の動向に影響を受けることがあります。積極的なプロモーションの推進や顧客の潜在ニーズを探り、商品企画に活かすことにより、当社製品の競争力を維持することに努めております。また、その他のリスクについては有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

【お問い合わせ先】

コーポレートコミュニケーション本部
mail : ir@p-antiaging.co.jp